

提出日： 2026 年 6 月 29 日

研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
商学部	教授	高見澤 秀幸

研究期間	以下1～4より、取得した研究機関を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。
	1. 2025年4月 1日 ～ 2026年3月31日
	2. 2025年9月 1日 ～ 2026年8月31日
	3. 2025年4月 1日 ～ 2025年9月20日
	4. 2025年9月21日 ～ 2026年3月31日
活動報告	研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。
	2025 年 4 月 1 日から 2026 年 2 月 28 日までロンドン大学 SOAS 校に客員研究員として在籍し、資産価格に関する理論研究、特に金利や配当の期間構造のモデル化を行った。具体的な研究テーマは下記の通り。
	①消費や配当の不連続な下落(負のジャンプ)を資産価格モデルに導入した場合、投資家の選好がどのように変化すれば、現実的な期間構造の水準や傾きを説明できるか。
	②投資家の選好の変化をどのようにモデル化すれば、配当期間構造が景気循環に応じて変動する様子を捉えることができるか。
	これらの問いを検討する意義は、期間構造に内在するキャッシュフローの期待成長率や投資家のリスク選好に関する情報を抽出し、それらを予測やリスク管理に応用できる点にある。
得られた研究成果について	上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。
	①の成果: 負のジャンプを導入した場合、投資家のリスク回避度は水準・変動幅ともに小さくなる一方、主観的時間割引率は水準が高まり、その変動幅も拡大することを明らかにした。これは、ジャンプを組み込んだ資産価格モデルにおいて、時間割引の役割が従来想定よりも大きいことを示す重要な知見である。
	②の成果: 配当期間構造の変動を説明するためには、主観的時間割引率は大きく変動する一方、リスク回避度の変動は小さくてもよいことがわかった。これは、選好パラメータを変化させるアプローチの有用性を示す重要な発見である。
今後の計画について	得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。
	①は現在、論文にまとめており、2026 年 7 月中にはワーキングペーパーとして完成させ、年度内の海外査読誌での公開を目指す。②はモデル化とシミュレーション分析を終えており、実データによる推定を 2026 年夏までに完了させる予定である。論文は年内にまとめ、2027 年中の海外査読誌での公開を目指す。